

2017年度 第1四半期 決算説明資料

2017年8月30日



■ 2017年度 第1四半期決算概況

■ 今期の見通し

【参考】

■ 1618中期経営計画

2017年度 第1四半期決算のポイント

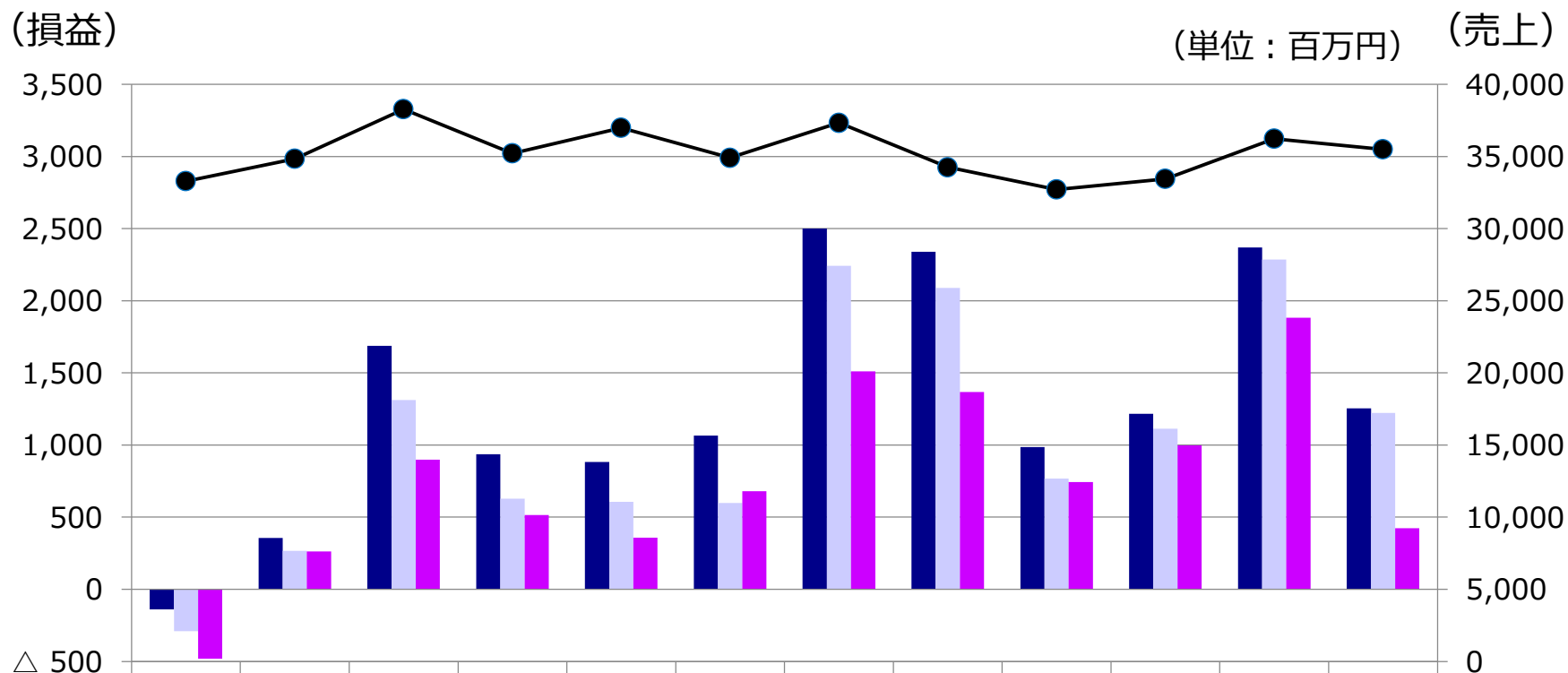
(単位：百万円)

	2016年度 第1四半期		2017年度 第1四半期		増減	
売上高	34,258	100.0%	35,494	100.0%	1,236	3.6%
営業利益	2,340	6.8%	1,255	3.5%	△1,085	△46.4%
経常利益	2,090	6.1%	1,222	3.4%	△868	△41.5%
当期純利益	1,368	4.0%	423	1.2%	△945	△69.1%
EPS (円)	52.94		16.38		△36.56	

《全体感》

- 売上：受注量の増加、アルミ地金市況変動の影響等により増加
- 営業利益：労務費・減価償却費の増加、価格改定の影響等により減益
- 経常利益：営業利益の減少及び支払利息等により減益
- EPS：当期純利益の減少により、36.56円/株減少

連結決算概要（四半期推移）



	14年度 2Q	14年度 3Q	14年度 4Q	15年度 1Q	15年度 2Q	15年度 3Q	15年度 4Q	16年度 1Q	16年度 2Q	16年度 3Q	16年度 4Q	17年度 1Q
■ 営業損益	△ 139	355	1,688	936	883	1,066	2,500	2,340	986	1,216	2,370	1,255
■ 経常損益	△ 291	266	1,311	629	607	599	2,242	2,090	767	1,113	2,286	1,222
■ 当期純損益	△ 481	262	899	514	358	680	1,510	1,368	744	998	1,882	423
● 売上高	33,294	34,842	38,279	35,217	36,989	34,913	37,332	34,258	32,718	33,453	36,228	35,494

ダイカスト事業

(単位：百万円)

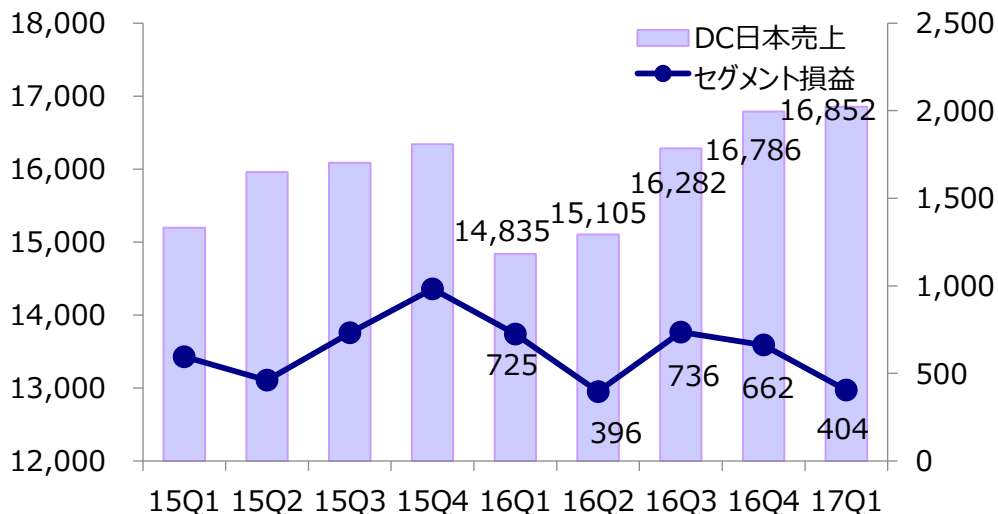
		2016年年度 第1四半期		2017年度 第1四半期		増減	
日本	売上高	14,835	100.0%	16,852	100.0%	2,017	13.6%
	セグメント損益	725	4.9%	404	2.4%	△321	△44.3%
北米	売上高	11,035	100.0%	10,443	100.0%	△592	△5.4%
	セグメント損益	1,029	9.3%	381	3.6%	△648	△63.0%
アジア	売上高	6,432	100.0%	6,655	100.0%	223	3.5%
	セグメント損益	382	5.9%	364	5.5%	△18	△4.7%

- ✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2016年度1Q：54.1% ⇒ 2017年度1Q：49.6%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



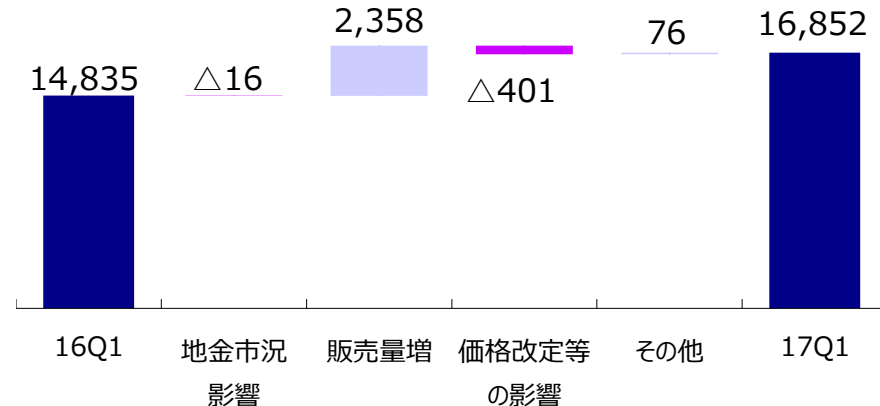
売上：20億円増（前期比13.6%増）

- 主要顧客の輸出が好調で受注量が増加
- 昨年の熊本地震の影響からの回復

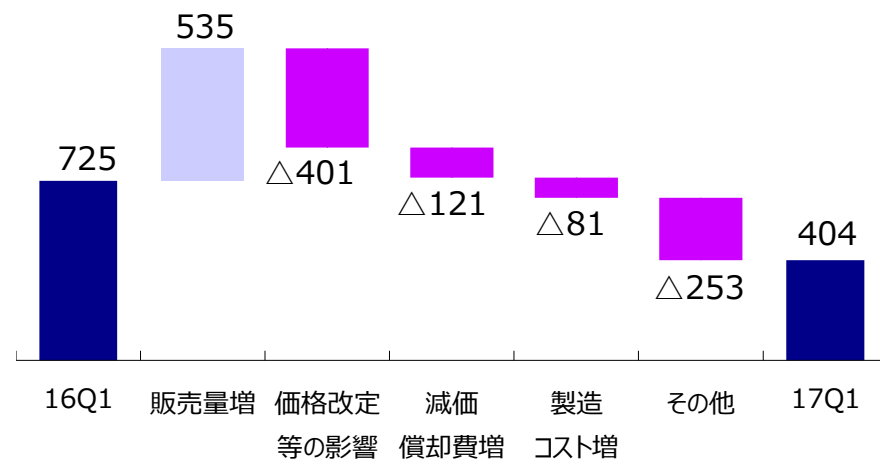
セグメント損益：3.2億円減（前期比44.3%減）

- 販売量増加の一方で価格改定の影響等もあり減益
- 減価償却費や労務費等も増加

売上高増減要因（単位：百万円）

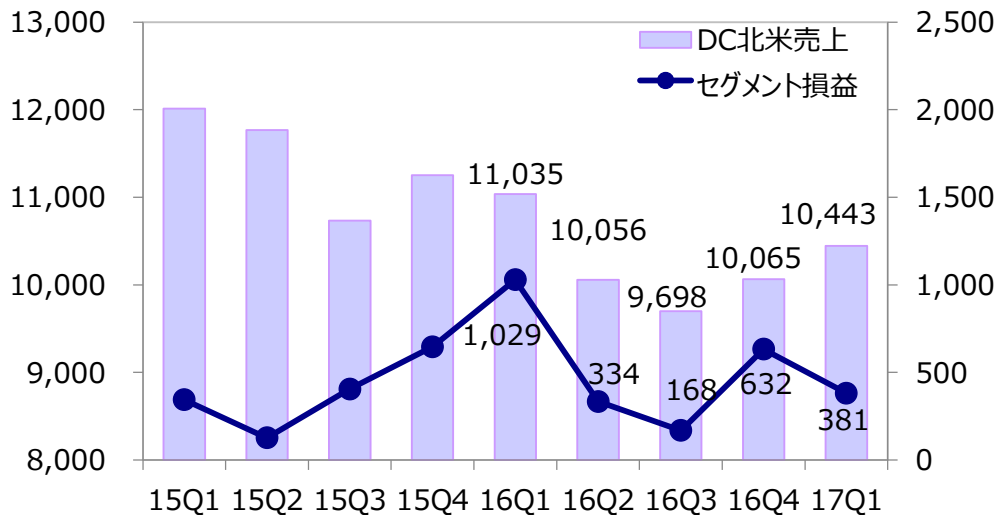


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



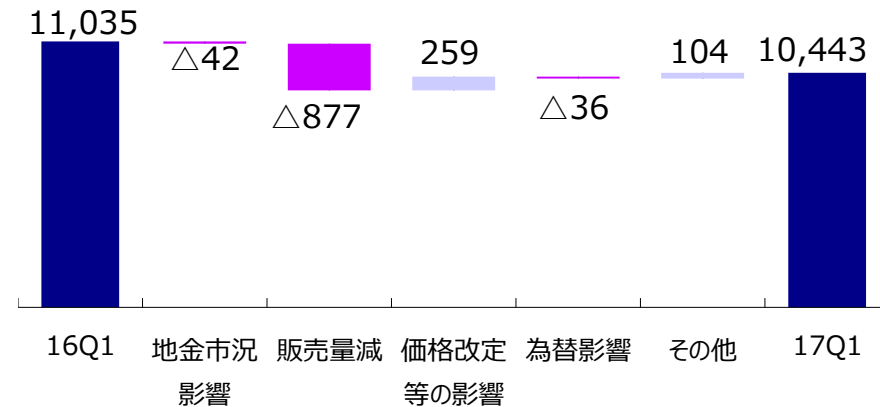
売上：5.9億円減（前期比5.4%減）

- 米国はダウンサイジングの影響を受け受注減
- メキシコでは受注増加傾向

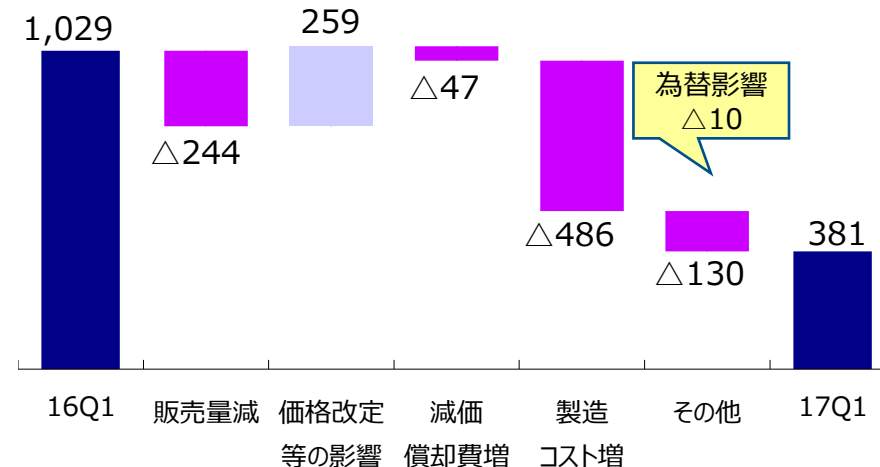
セグメント損益：6.4億円減（前期比63.0%減）

- 米国は販売量の減少と生産性の改善途上
- メキシコでは安定した生産による収益を計上（会計基準変更により、メキシコのPTUを計上）

売上高増減要因（単位：百万円）



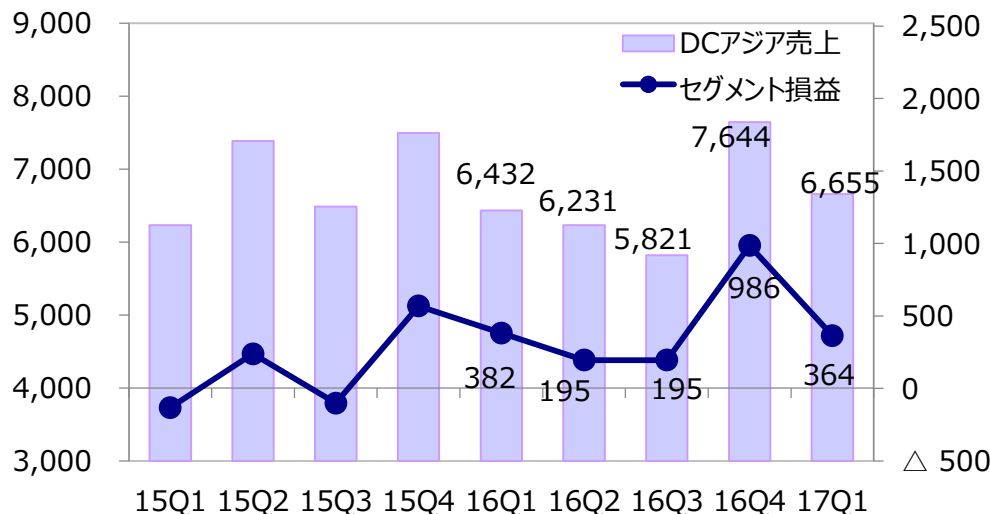
セグメント損益増減要因（単位：百万円）



決算期：アメリカ3月期、メキシコ12月期
 レート（16Q1⇒17Q1）アメリカ 109.58⇒111.61 メキシコ 116.44⇒113.75

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上：2.2億円増（前期比3.5%増）

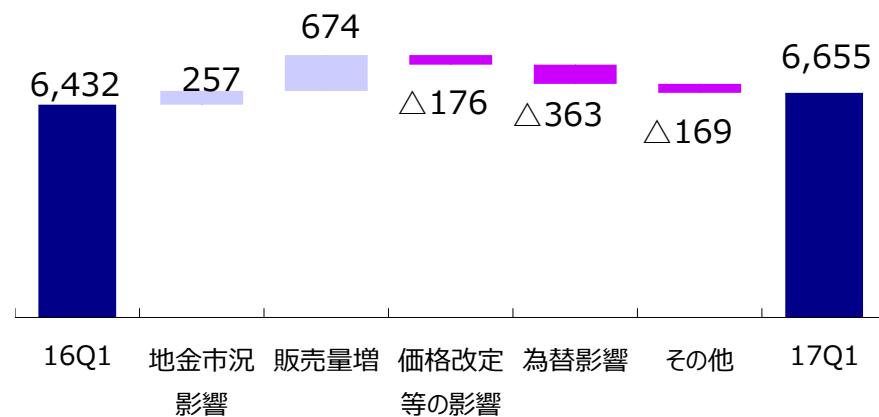
- 中国はSUV増産による受注増
- インドも受注増により売上増加

セグメント損益：0.1億円減（前期比4.7%減）

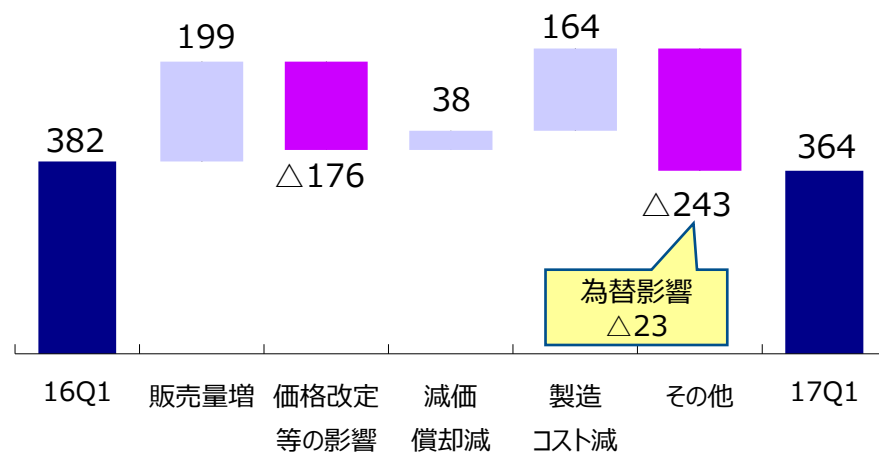
- 中国・インドでの受注増加が収益面で貢献
- 中国の生産性改善も収益に貢献

決算期:中国12月期、インド3月期
レート (16Q1⇒17Q1) 人民元 17.77⇒16.51 インドルピー 1.64⇒1.73

売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2016年度 第1四半期		2017年度 第1四半期		増減	
アルミニウム 事業	売上高	1,123	100.0%	1,107	100.0%	△16	△1.5%
	セグメント損益	90	8.0%	56	5.1%	△34	△37.2%
完成品事業	売上高	831	100.0%	435	100.0%	△396	△47.7%
	セグメント損益	59	7.1%	53	12.2%	△6	△11.5%

アルミニウム事業

- ▶ 売上：アルミ地金市況変動による販売価格の減少により減収（前期比1.5%減）
- ▶ セグメント損益：原価低減活動効果はあったが燃料費の価格上昇等により減益（前期比37.2%減）

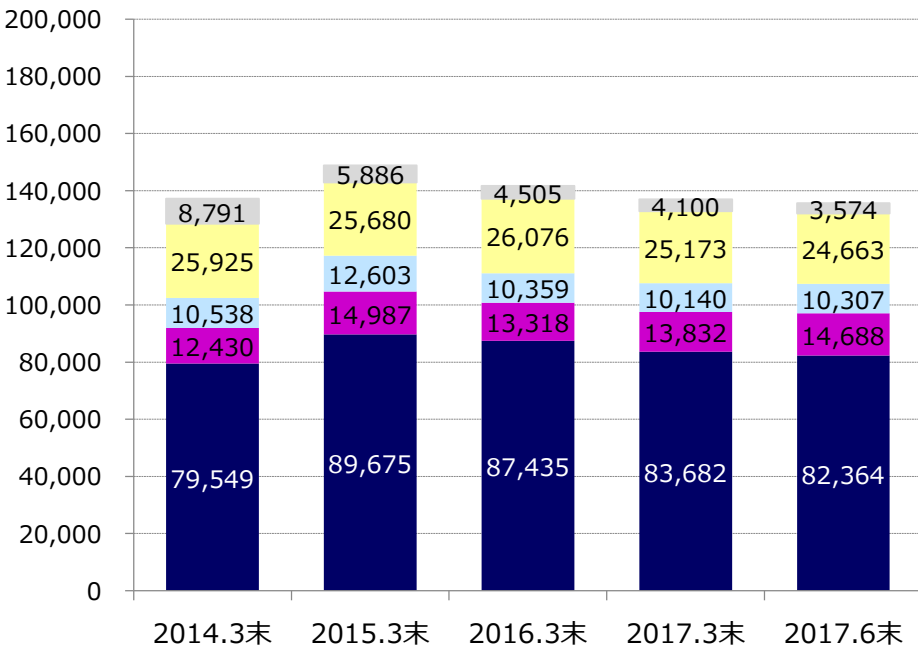
完成品事業

- ▶ 売上：クリーンルーム物件やコンピュータールーム物件の受注が減少し減収（前期比47.7%減）
- ▶ セグメント損益：減収による影響等により減益（前期比11.5%減）

連結貸借対照表

■ 資産の部

(単位：百万円)



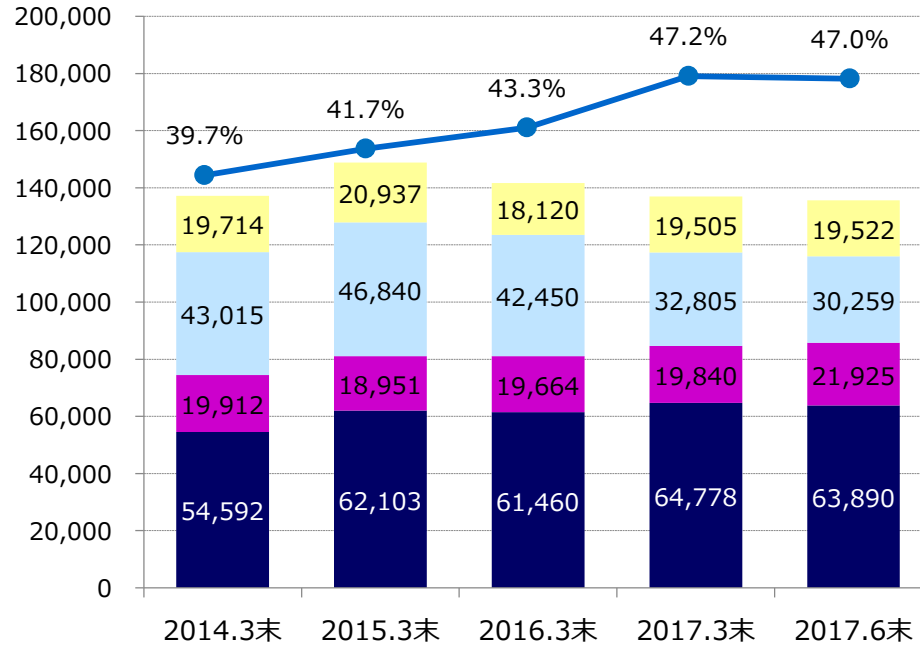
■ 現預金 ■ 売上債権 ■ 棚卸資産 ■ その他資産 ■ 有形無形固定資産

▶ 2017年3月末からの増減

為替影響：19億円減少⇒純増減：約6億の増加
 流動資産：約2億円純増
 (固定資産税、労働保険料概算額の前払費用増加)
 固定資産：約4億円純増
 (有価証券の評価替え、長期繰延税金資産の増加)

■ 負債の部

(単位：百万円)

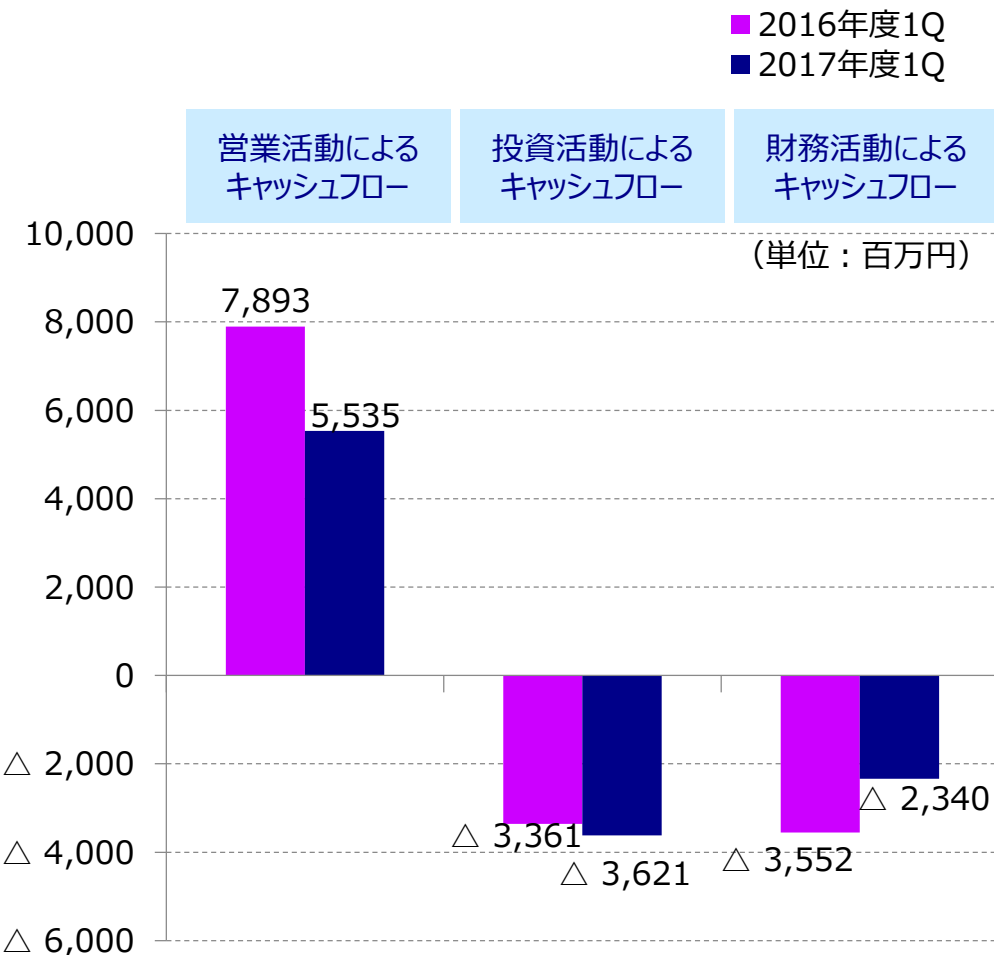


● 自己資本比率
 ■ 仕入債務 ■ 長短借入金 ■ その他負債 ■ 純資産

▶ 2017年3月末からの増減

負債：為替影響：約8億円の減少⇒純増減：約4億円の増加
 流動負債で約19億円純増、固定負債で約15億円純減
 (長短有利子負債の減少)
 純資産：当期純利益等により約9億円減少、為替換算調整勘定
 等により△11億円となり2億円の純減
 自己資本比率：47.0%となり0.2ポイント減少

連結キャッシュ・フロー



対前期増減要因

- **営業CF** △23億
 - 税金等調整前純利益 △10億
 - 売上債権の増減額 △19億
 - 仕入債務の増減額 +11億
- **投資CF** △2億
 - 北米・アジアの設備投資が増加
- **財務CF** +12億
 - 短期借入金の借入及び返済が減少

■ 2017年度 第1四半期決算概況

■ 今期の見通し

【参考】

■ 1618中期経営計画

2017年度 通期計画

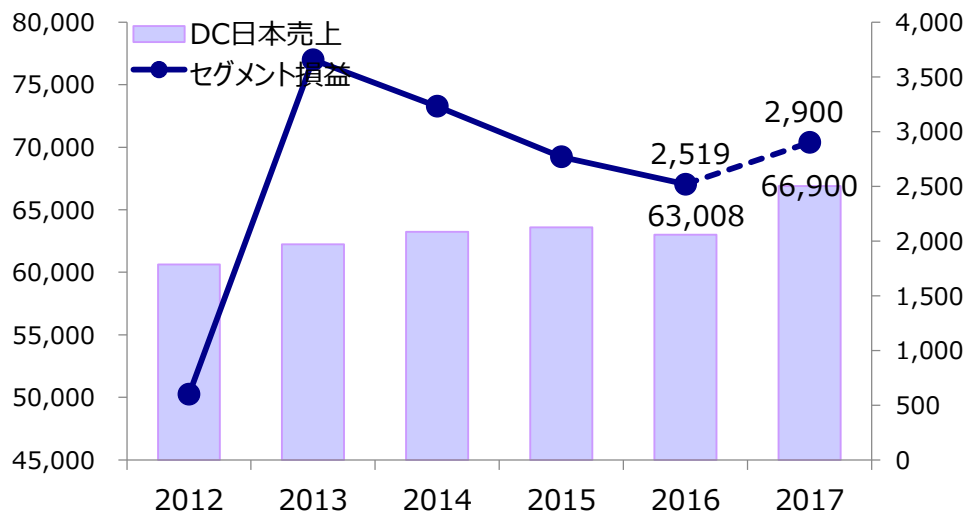
(単位：百万円)

	2016年度 実績		2017年度 計画		増減	
売上高	136,657	100.0%	142,000	100.0%	5,343	3.9%
営業利益	6,912	5.1%	7,000	4.9%	88	1.3%
経常利益	6,256	4.6%	6,400	4.5%	144	2.3%
当期純利益	4,992	3.7%	4,400	3.1%	△592	△11.9%

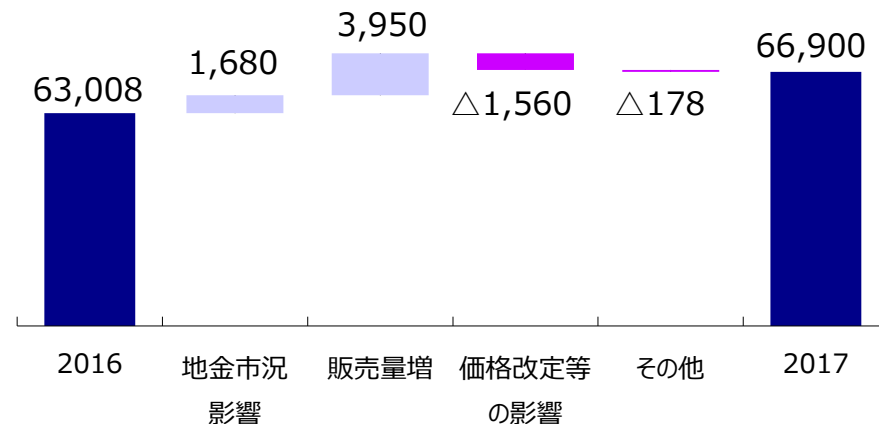
実績の為替レート (通期平均) : USD 米109.18円 メキシコ110.30円 人民元 16.56円 ルピー 1.63円
 計画の前提レート : USD 110円 人民元 16.0円 ルピー 1.6円

ダイカスト日本

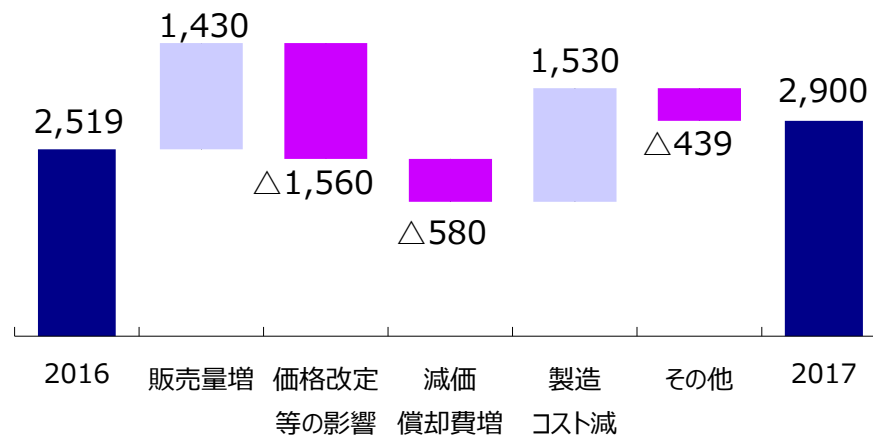
ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



売上高増減予測 (単位：百万円)



セグメント損益増減予測 (単位：百万円)



売上：669億円 (対前期実績 6.2%増)

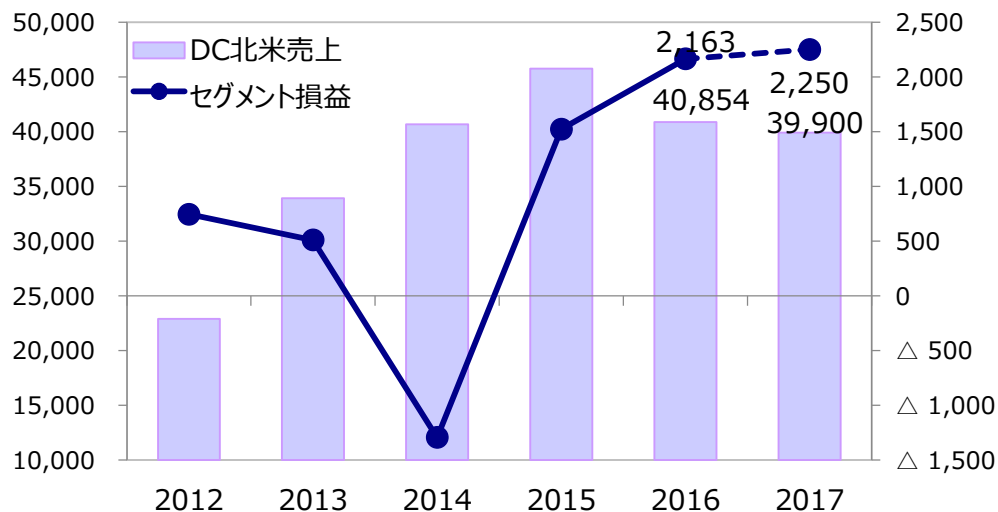
- 販売量は前期実績を上回る水準
- 地金市況は前期実績よりも上昇する予測

セグメント損益：29億円 (対前期実績 15.1%増)

- 増量及び原価低減効果により増益予想

ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移 (単位：百万円)



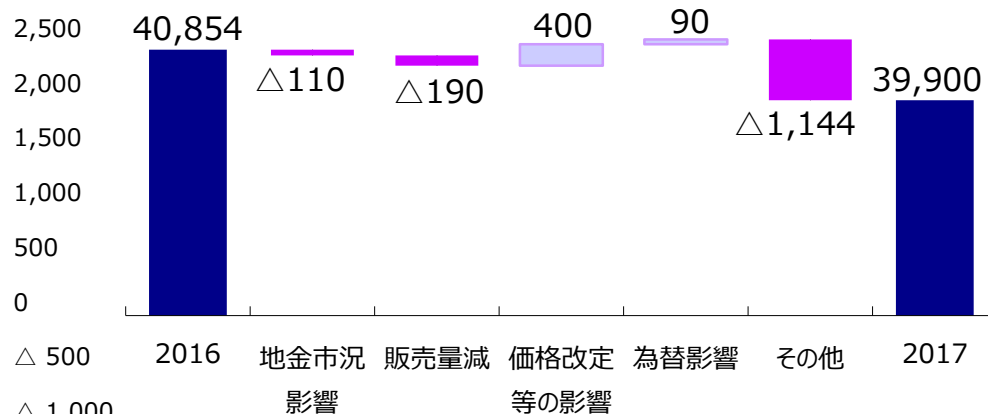
売上：399億円 (対前期実績 2.3%減)

- 販売量の影響により売上は微減
- 金型・その他売上等は前期実績より減少

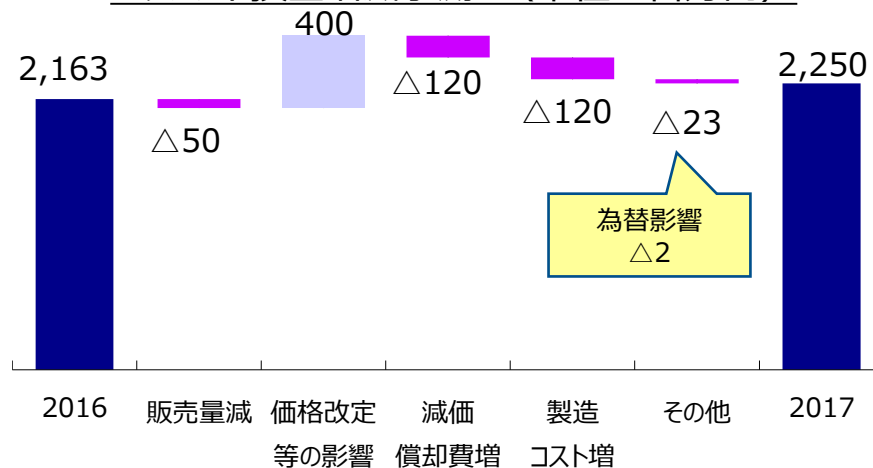
セグメント損益：22.5億円 (対前期実績 4.0%増)

- 製品構成の変更等により増益予想

売上高増減予測 (単位：百万円)

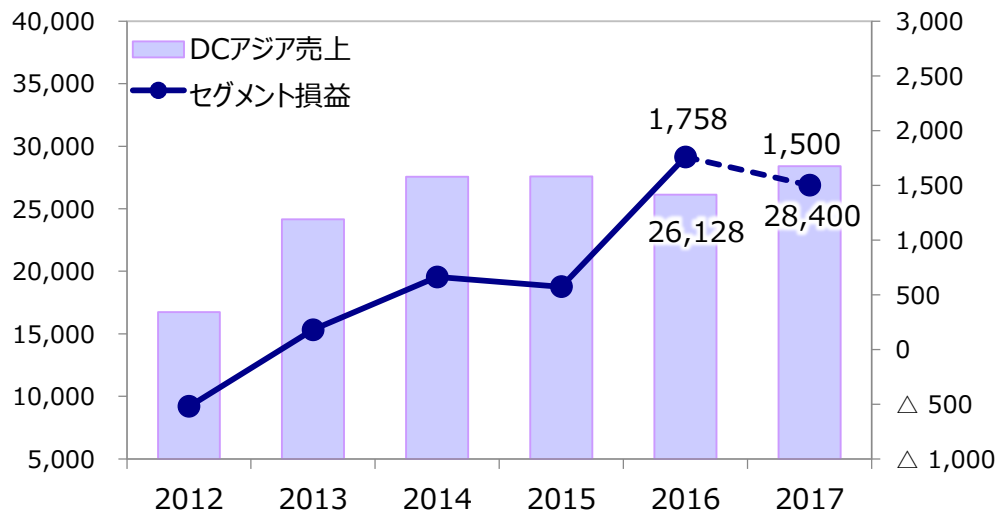


セグメント損益増減予測 (単位：百万円)



ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



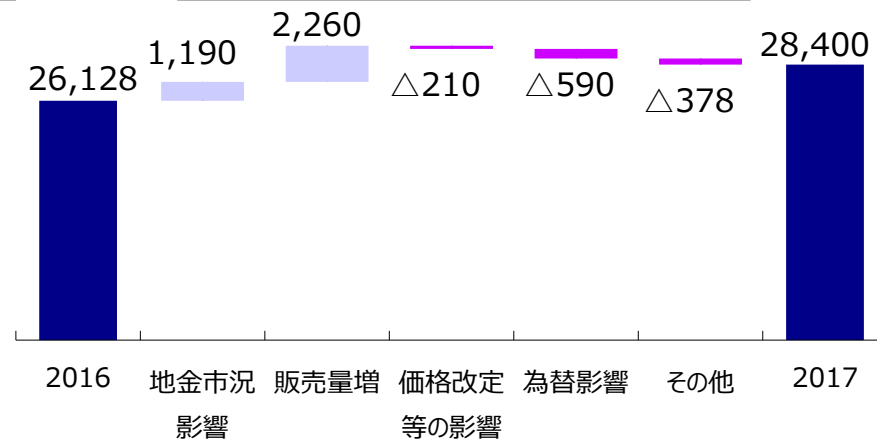
売上：284億円（対前期実績 8.7%増）

- 販売量は前期実績を上回る水準
- 地金市況は前期実績よりも上昇する予測
- 円高進行による為替影響

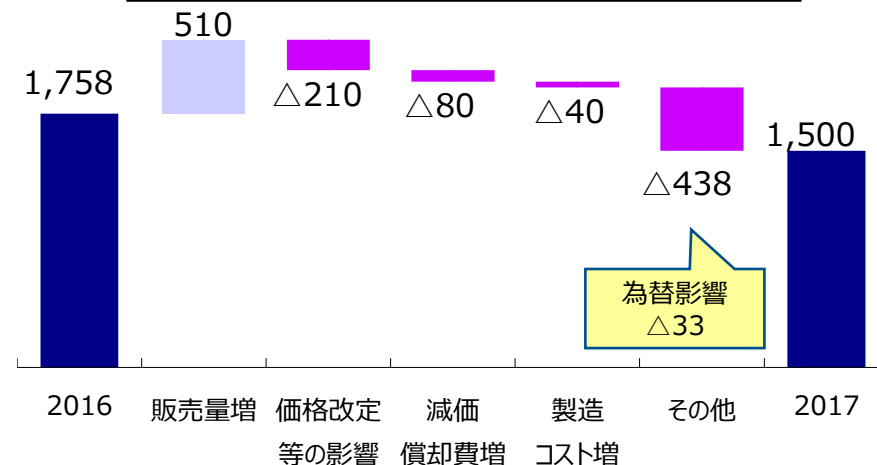
セグメント損益：15億円（対前期実績 14.7%減）

- 付加価値単価の増減等により減益予想

売上高増減予測（単位：百万円）



セグメント損益増減予測（単位：百万円）



アルミニウム事業および完成品事業

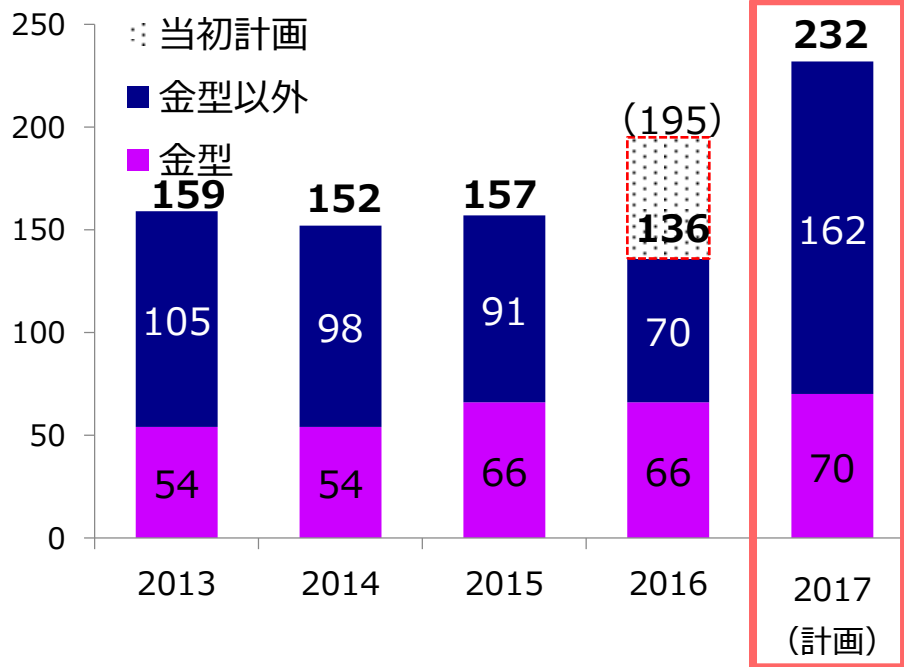
(単位：百万円)

		2016年度 実績	2017年度 計画	増減	
アルミ ニウム 事業	売上高	4,402	4,600	198	4.5%
	セグメント損益	274	250	△24	△2.8%
完成品 事業	売上高	2,263	2,200	△63	△8.8%
	セグメント損益	155	100	△55	△35.5%

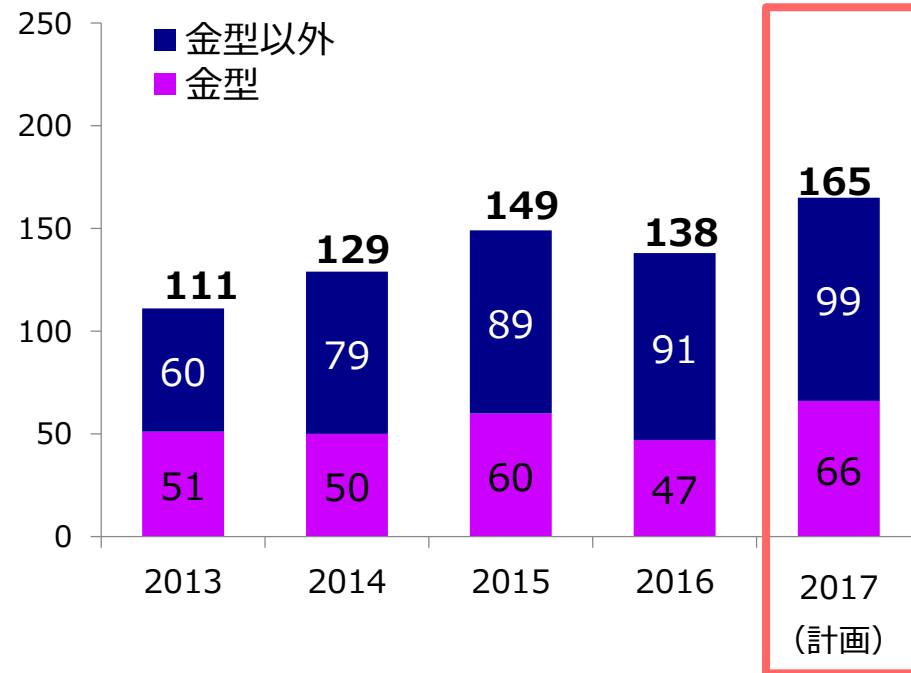
➤ 完成品事業については半導体関連企業のクリーンルームやコンピュータールームの受注が減少する予測

設備投資・減価償却の動向

設備投資額の推移（単位：億円）



減価償却費の推移（単位：億円）



2017年度

- 投資内容 ダイカスト：能力維持、合理化投資を中心 加工：海外拠点の能力拡充投資を中心
 - 設備投資金額：合計232億円（一般設備投資 162億円、金型投資 70億円）
- ※2016年度は顧客都合等による設備投資の見直し・延期で減少（当初計画 195億円 → 実績 136億円）

配当

1株当たり配当金	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度 予想
(年間)	14	12	14	20	26
中間配当	8	6	6	8	12
期末配当	6	6	8	12	14
1株当たり純損益(連結)	287.10	40.85	118.50	193.15	170.24
配当性向(連結)	4.9%	29.4%	11.8%	10.4%	15.3%

- 2016年度は、期初計画の業績を達成できたため、中間配当を2円、期末配当を4円増配し年間20円の配当を実施
- 2017年度は、年間26円の配当を予想
- 中長期的な企業成長に必要な経営基盤や配当性向等を勘案し適正な利益還元を推進

■ 2017年度第1四半期決算概況

■ 今期の見通し

【参考】

■ 1618中期経営計画

10年ビジョンと中期経営計画の推移

「すべてのステークホルダーから信頼される
グローバルトップ企業」をめざす

ものづくりを究め、ものづくりを
進化させる

信頼を究めよう 2025

0910

生き残りをかけた
体質改善

1012

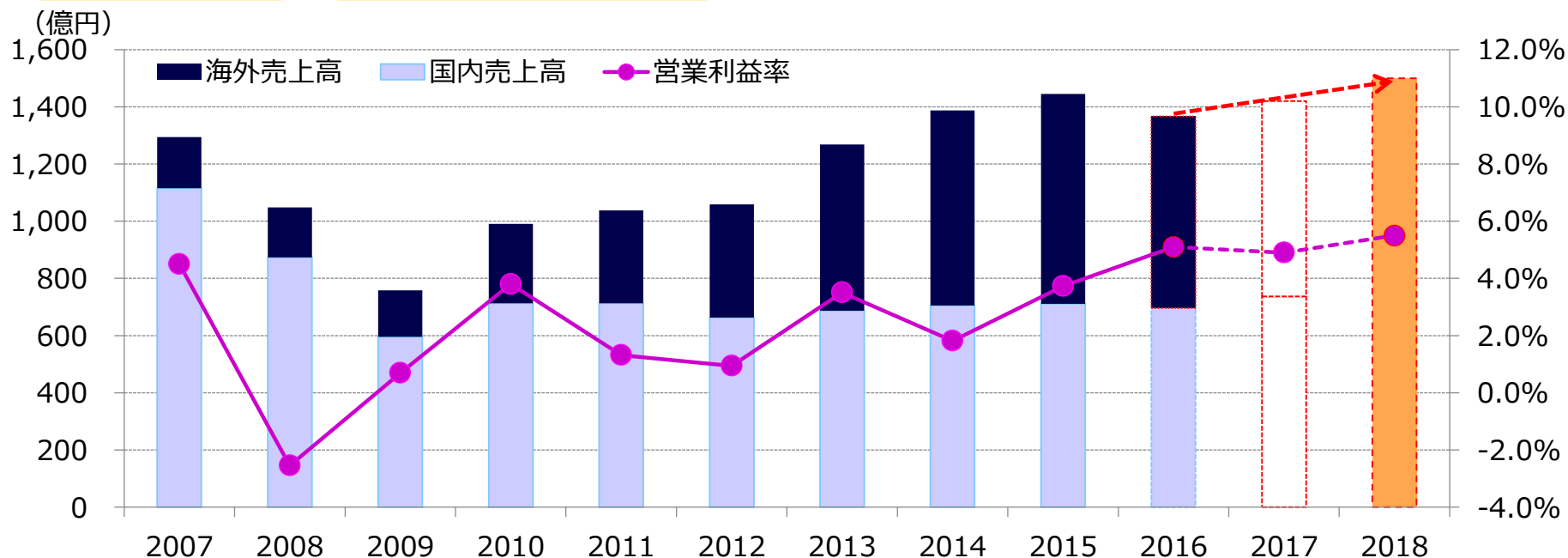
品質を中心においた基盤
強化

1315

ものづくりに焦点を当て収
益性向上

1618

グローバルで同一ものづく
りと品質を実現



1618中計では1315中計を更にグローバルで展開し「ものづくり」「ひとづくり」「収益力強化」を図る

1618中期経営計画の基本方針

アーレスティ10年ビジョン

信頼を究めよう 2025

ありがたい
姿

- お客様からの信頼No.1
- グローバルで車の軽量化に役立つ
- 売上高2000億円+α

1618中期経営計画

① 大型高難易度製品の顧客評価
No.1実現

② ものづくりを究める

③ 生きいきと活動する
会社を築く

④ 収益力を高める

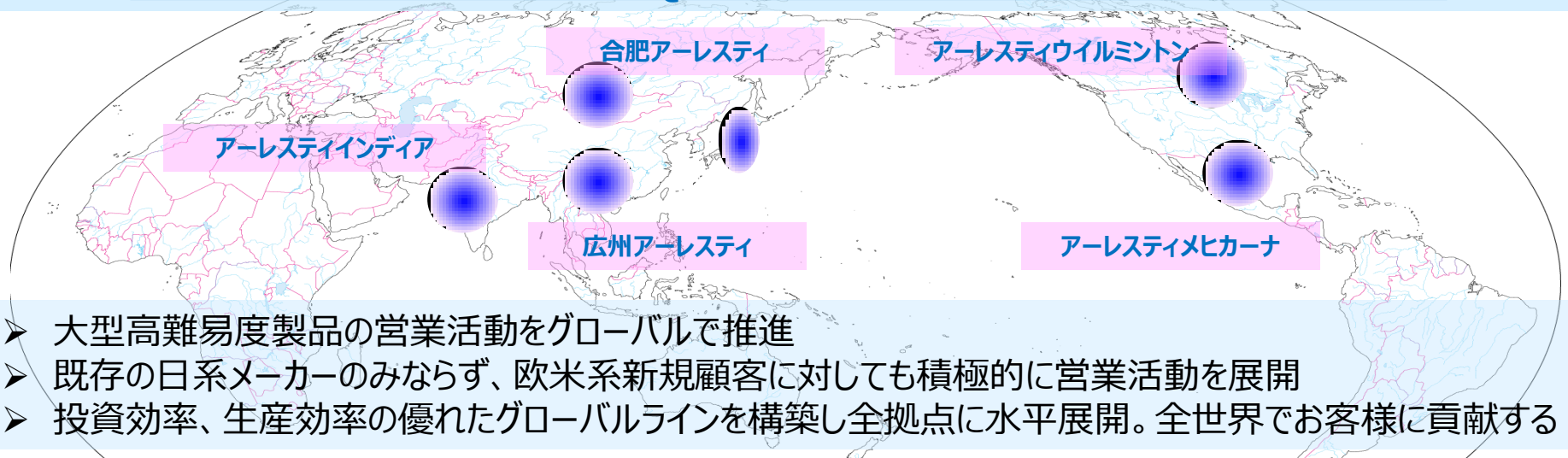
⑤ リスク管理を徹底する

1618中期経営計画の進捗状況

- ・ものづくりを究め、アーレスティプロダクションウェイを確立する事を基本方針に5つの柱を推進
- ・グローバルでしくみを統一し、同質のものづくりと品質を実現していく活動により水準の底上げを実施
- ・方針評価会でのPDCA管理を実施（国内4回、海外9回（北米、中国、インド・タイ各3回））

①大型高難易度製品の顧客評価No.1実現

大型で要求品質の高い部品のQCDを向上させることで顧客評価No.1を目指す



- 大型高難易度製品の営業活動をグローバルで推進
- 既存の日系メーカーのみならず、欧米系新規顧客に対しても積極的に営業活動を展開
- 投資効率、生産効率の優れたグローバルラインを構築し全拠点に水平展開。全世界でお客様に貢献する

(進捗状況)

- ◆ 北米・中国の営業強化：米オフィス開設、中国北米営業人員増員、欧米メーカーへのコンタクト開始
- ◆ スバル向けブロック専用ラインを栃木工場に構築
- ◆ 車体や足回りなどの軽量化ニーズに応えるための専門部隊を設置
- ◆ マルチスズキよりOver All Excellence Award受賞（インド）
日野自動車より品質優良賞受賞 ・ 瀋陽三菱自動車より優秀サプライヤー賞受賞（合肥）
トヨタ自動車より品質賞、ZERO PPM賞受賞（インド）

①大型高難易度製品の顧客評価No.1実現

本コンセプトに基づいた新製造ライン アーレスティ栃木 第6工場 稼働開始

- 増築面積：1,143㎡
- 設置設備：2250トンダイカストマシン
機械加工設備他
- 生産能力：2,800t/月⇒3,000t/月
200t/月増加

第6工場製造ラインのコンセプト

- 同期化ライン：鋳造～完成品までの複数
工程を1個流し
- 省人化
- 在庫削減：工程間の無駄な在庫を削減
- 設備故障予防
- その他製造条件管理



第6工場外観



第6工場内

②ものづくりを究める

グローバルレベルでの業務改革・標準化

グローバル基準でものづくりプロセスを確立

信頼を究める品質保証の確立

技術のロードマップの実現

徹底した製造原価低減活動

(進捗状況)

1. 鋳造・加工の最適製造条件の監視と管理を実施
2. ランクアップ活動による品質保証体制の構築
3. 技術のロードマップに基づく課題の解決と技術の蓄積を推進
4. ロス低減と原単位管理による原価低減を推進

- ◆ 品質保証のランクアップ活動による取組みを展開・適用 → クレーム件数の低減を実施
- ◆ 方針評価会開催（国内1回/3ヶ月、海外1回/4ヶ月）
- ◆ Global Kaizen Meetingの開催

②ものづくりを究める

Global Kaizen Meeting

Globalで成長していくこと
拠点の技術水準を同一・同質にすること
を目的に
年1回 海外拠点を含め開催



2016年10月 海外からも16名が参加し
総勢48名で「**鋳造OPCC**」をテーマに
事例報告や活発な意見交換を行われた

■ **OPCC**
Optimal Process Condition Control の略

③ 生きいきと活動する会社を築く

RST Wayを実践できる企業風土づくり

ものづくりを究める人材育成

RSTWay

「誠実」「率先」「スピード」「成長」「挑戦」

RSTWayを実践できる、風通しの良い企業風土を築く

社員のモチベーション向上
社員間の良好な関係構築
スピーディかつ正確な情報伝達

(進捗状況)

- ◆ Wayの取組みは前年比活発化し、各部門に浸透
- ◆ Way推進担当者会議の定期開催と情報共有
- ◆ RST Way表彰 Ahresty Award創設
- ◆ コミュニケーション活性化委員会設置、委員会活動
- ◆ 社内壁新聞発行、社内報、グローバル報発行

RSTプロダクションWay

教育体系を整備運用して人材育成を強化
(グローバルRSTラーニングの充実)

社員のモチベーション向上
社員の知識、技能のレベルアップ

(進捗状況)

- ◆ 日本のRST学園を海外拠点に拡大
- ◆ 教育体系・カリキュラムの整備、テキストの整備
- ◆ トレーナー養成教育を開催
- ◆ インドQC協会から金賞受賞

③ 生きいきと活動する会社を築く

グローバル RST ラーニング (RST学園)


創業時から蓄積してきた**ものづくりのノウハウ**を**伝承**するため、
グローバルで全社員が**同一水準の教育**を受講

必要な教育を誰でも受講でき、
標準の大切さを演習で体験する教育を推奨している



④収益力を高める

1618中期経営計画 経営目標値

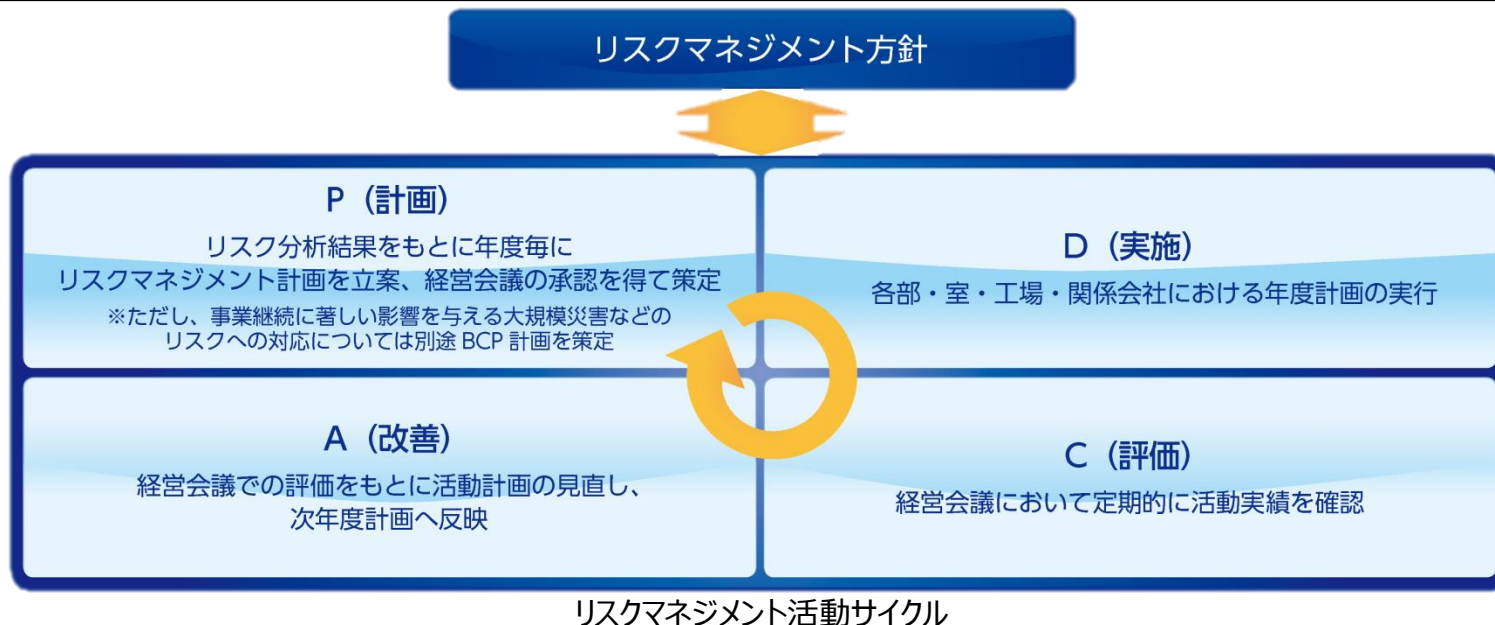
	2016年度 (実績)	2017年度 (計画)		1618中期経営計画 (目標値)
売上高	1,366	1,420		1,500
営業利益率	5.1%	4.9%		5.5%
総資産利益率 (ROA)	3.6%	—		3.0%
自己資本利益率 (ROE)	7.9%	—		7.0%

中長期的な事業発展・企業成長のための財務体質と経営基盤の強化

適正な利益還元

⑤ リスク管理を徹底する

想定リスクを特定・評価、リスク発生の未然防止と、影響の極小化に取り組む



(進捗状況)

- 2016年度 国内工場：熊本地震での教訓も踏まえたBCP訓練の実施
海外工場：各国各地域でのリスクに応じたBCPの策定
- 2017年度 BCPの拡充と訓練を実施
→ 継続的なBCP見直し



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。